

科目名	アメリカ文学特殊研究	担当者	マツオカ 松岡 ナオミ 直美	期間	通年	単位数	4
-----	------------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	アメリカ・ポストモダン・フィクションの文学史的意義を再検証する。モダニズムに発しながら、戦後アメリカの政治、テクノロジー、また社会・文化的文脈において様々に展開された文学潮流であったのだが、それは20世紀後半の急変する時代と社会に対する文学の側からのレスポンス—懐疑と問題提起—であったと言える。代表的なテキストを精読してポストモダン・フィクションの主な特質を確認した上で、21世紀の文学にどう継承されているかについても考察を進める。		
到達目標	メタ・フィクション、パステイシュ、作家と読者の共謀関係、playfulness、サブ・カルチャーの前景化など、ポストモダン・フィクションの特徴を確認する。その上で、こうしたナラティブによって明らかにされる「正史／オルタナティブ・ヒストリー」、「男性原理／女性原理」、「国家／個人」、「体制／大衆ネットワーク」、「情報管理／情報共有」、「全体主義／民主主義」といった実験社会であり続けるアメリカの課題を理解する。最終的には、こうした課題がグローバル化の時代にあっては、多くの地域や社会に共通する問題であることへの理解にまで到達したい。		
学修方法	基本教材を精読し、課題に取り組む。レポート作成にあたっては、草稿から最終稿に至るまで、履修者と担当者間で質問やコメント、添削や書き直しを繰り返し、段階的に進める。こうした作業を、レポート提出システム manaba を活用して行い、学修ポートフォリオを作成していく。面接ゼミおよびサイバー・ゼミにも随時参加し、課題レポートについての報告を行うことが望ましい。		
スケジュール	前期：7月中旬までに教材1のレポート課題(1)最終稿を提出。 レポート課題(2)については9月中旬までに最終稿を提出。 後期：11月中旬までに教材2のレポート課題(1)最終稿を提出。 レポート課題(2)については2017年1月の課題提出締切日までに最終稿を提出。		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	教材を精読理解し、先行研究等関係資料を活用し、課題に応える内容となっているか、また、学術論文の体裁が整っているか評価する。
	平常評価	20%	メール、manaba、ゼミ等を活用して積極的に課題に取り組んだかを評価する。
履修者への要望	レポート作成は博士論文執筆に向けての重要な準備プロセスでもある。原語テキストを精読することが最優先課題だが、適宜、日本語訳を参照してもよい。先行研究については、検索・収集を行い、これらを起点、あるいはサポートとして自らの考察を進め、自らの言葉で執筆することが重要である。レポート1編ずつに真摯かつ丁寧に取り組むことで、論文作成の力と技術を高めてほしい。また、ゼミ（面接・サイバー）への「出席」や、manabaのコミュニティや掲示板でリサーチの進捗状況を報告し、レポート内容を発表するなど、積極的な「参加」が求められる。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名 : Geyh, Paula, Fred G. Leebron, and Andrew Levy, eds. 教材名 : <i>Postmodern American Fiction: A Norton Anthology</i> . 1998. ISBN:978-0-39-331698-8 3,442 円+税 (Paperback)
	1950 年代以降, アメリカに台頭したポストモダン・フィクションのアンソロジーである。多種多様な傾向をもつ作品群を「ジャンルの越境」, 「事実と虚構の遭遇」, 「歴史再訪」, 「伝統の改訂」などに分類して, 検証し, その全貌を明らかにしている。前期は, トーマス・ピンチョン, カート・ヴォネガット, ポール・オースターら, 男性作家を取り上げる。
参考図書	Gibaldi, Joseph. <i>MLA Handbook for Writers of Research Papers</i> . 7 th Ed. Modern Language Association of America, 2009. ISBN:978-1-60-329024-1 2,904円+税 (Paperback)
履修上のポイント	原語テキストの精読を勧める。 先行するモダニズム文学と対比させるなど, その関係性の理解に努めることも重要である。
レポート課題 1	トーマス・ピンチョンの『競売ナンバー49 の叫び』を精読し, コンスピラシーやパラノイアなど戦後アメリカ社会のサイキを小説の形式およびストーリーの展開に即して論じなさい。(3,000 字) 留意点 : 9.11 以降のアメリカ, また, 情報化, グローバル化の時代における現代社会の状況や課題とも結び付けて, 考察を進めてもよい。
レポート課題 2	カート・ヴォネガットの『スローターハウス 5』を精読し, 過去の戦争をいかにして文学として語っているか, 語りの形式に焦点を合わせ, 論じなさい。(3,000 字) 留意点 : 戦禍や大災害といったカタストロフィーをいかに語るか, 文学の可能性について考察すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名 : Geyh, Paula, Fred G. Leebron, and Andrew Levy, eds. 教材名 : <i>Postmodern American Fiction: A Norton Anthology</i> . 1998. ISBN:978-0-39-331698-8 3,101 円+税 (Paperback)
	1950 年代以降, アメリカに台頭したポストモダン・フィクションのアンソロジーである。多種多様な傾向をもつ作品群を「ジャンルの越境」, 「事実と虚構の遭遇」, 「歴史再訪」, 「伝統の改訂」などに分類して, 検証し, その全貌を明らかにしている。後期はトニ・モリソン, レスリー・マーモン・シルコウ, テレサ・ハッキオン・チャら, 女性作家を取り上げる。
参考図書	Gibaldi, Joseph. <i>MLA Handbook for Writers of Research Papers</i> . 7 th Ed. Modern Language Association of America, 2009. ISBN:978-1-60-329024-1 (Paperback)
履修上のポイント	白人男性作家によるポストモダン・フィクションが言葉ゲームに過ぎないと批判されるのに対し, 女性作家のナラティブにおいては, 歪められ, 押さえ込まれ, 埋められた過去を掘り起こし, 断片をつなぎ合わせ, 修復するという過酷な作業が展開されている。これを原文テキストによって検証すること。
レポート課題 1	トニ・モリソンの『ピラヴド』を精読し, 歴史において黒人として, また女性として, 幾重にも抑圧されてきた女の語りがいかにして過去を再生しているか, それが我々の時代・社会認識にどのような影響を与えるか論じなさい。(3,000 字) 留意点 : 英語テキストにおいて, モリソンの重層的な語りを確認すること。
レポート課題 2	テレサ・ハッキオン・チャの『デクテ』を精読し, 歴史において複数の言語, 複数の文化によって人間性がいかに蹂躪されてきたか, さらに, その回復・修復の可能性について考察しなさい。(3,000 字) 留意点 : 難解なテキストであるが, 原文テキストを読むことでチャの文化的営為に参加することが求められる。